7/4 福井

学術会議

任命拒否の6人含めず

新会員候補 「前回改選」考え維持

日本学術会議がまとめた次期の新たな会員候補者105人に、2020年に菅義偉首相（当時）が任命を拒否した6人が含まれていないことが3日、関係者への取材で分かった。6人は20年の前回改選時に任命されるはずで、次期候補者に加えると政府の任命拒否方針を追認することになるのが理由。前回の候補者として会員にすべきだと継続して訴えていく。

学術会議は科学者の代表機関とされ、政府への政策提言などを行う。会員は210人で、3年ごとに半数を入れ替える。現在、今年9月に任期が終わる会員に代わる新会員を選考中で、6月29日に開かれた幹事会で、候補者名簿をまとめた。

幹事会後の記者会見で、梶田隆章会長は、6人は20年10月から任期が始まるはずだったと説明し「その方針に変更はない」と述べた。名簿は今月16日に開かれる総会で示される予定。

政府は、現会員が候補者を推薦する現行の方式を見直す必要があるとして、第三者委員会を新設して関与させる学術会議法改正案を、先の通常国会に提出することを目指していたが、学術会議側の強い反発で断念した。

法改正に反対する研究者有志は3日、研究者を中心とした約5万4千人分の署名を内閣府に提出した。改正案が改めて提出される可能性があり、学術会議の独立性が侵害されると懸念している。

政府は今後、有識者懇談会を設けて、学術会議の組織や運営の在り方を見直す方針。